

渡邊義方 わたなべ ぎほう 戯作者。安政四年江戸生れ、大正十五年没（一八五七—一九三〇）。舊姓加治。號京文舎文京、代作屋文京、文京、灣白童子、花笠堂、花笠文京（二世）等。假名垣魯文門下。新聞記者、ゆり實業の轉じると、晩年は入不幸福で落魄其極に達し（野崎左文）たといふ。

著書「繪入朝鮮變報録」（渡邊文京名、初編、二編・明治十五年九月金松堂）、赤繩「みだれ五月雨日記」（花笠文京名、明治十六年十一月十日繪入自由出版社）、歌舞伎音曲「藝指技事情通人必携」（同、明治十七年四月繪入自由出版社）、ゲーテ作・井上勤譯述「獨逸狐の裁判」（校正、明治十七年七月繪入自由出版社。改題再刊「禽獸狐の裁判」十九年四月二十日春陽堂書房）、ヂューニス、ベル子作・井上勤譯述「白露華自由遊征矢」（校正、明治十七年十月繪入自由出版社）、シューニス、ベル子作・井上勤譯述「亞非利加内地空中旅行」（校正、明治十九年四月二十日春陽堂）、忠孝「北雪美談」（文京名、金籟堂—上村秀星編、明治十九年五月二十五日高崎修助出版、辻岡文助發兌）、夢柳居士作「勤王高嶺の荒鷲」（編、明治十九年十一月弘文館）等。

